

白鳥に魅せられて

上越市 岩関順雄

白鳥が高田公園のお堀に最初に飛来したのは確か五十六年前だったと記憶しています。

一組の番（つがい）が北城高校の前のお堀を優雅に泳ぐ姿を見て、当時購入したばかりのオリンパスのデジカメで撮影し、友人にメールして以来、私の白鳥との付き合いが始まりました。

しかし、過去に白鳥が来た記憶はなく、たまたま何らかのトラブルで飛来したのだろうくらいに思っていました。

翌年、まだ色の黒い雛を数羽連れて帰ってきたときはうれしかったですね。これで白鳥がお堀に定着してくれると、家で晩酌をしながらシベリアと上越を結ぶラインに思いを馳せたものです。

それから、七羽だった五羽だったりと数は一定しませんが、毎年確実に飛来しています。

昨年は五羽でしたが、今年は過去最大で三家族十二羽が、野鳥の王者にふさわしい、優雅な姿を見せています。

お堀の水質が良くなったことも白鳥が住み着いた要因だとおもわれます。

一方、この白鳥に物を投げたり、お堀にごみを捨てたりする行為が時々見られるのは残念ですね。また、雷魚釣りのルアーや釣り糸が蓮の茎や桜の枝に絡みついています。白鳥の住む環境に気を配って欲しいものです。

最近では白鳥もお堀に馴染んで来た様で、外堀の主といった風格が出ているように思えます。そこで腰折れを一句。

白鳥や城址の堀のあるじかな

白鳥は人間を恐れませんが、白鳥の餌付



けについては賛否がありますので、積極的にはやりませんが、雪が多く、餌が少ないときなどは食パンの耳を撒くと喜んで食べています。

白鳥の日課は、朝の六時半に飛び立つて、餌場へと向かい、夕方近くに帰ってきます。

青空のもと、帰ってくる白鳥を下から見上げたときの美しさは、真つ白な妙高山とマッチし、優美ですばらしい光景です。このシーンを、ぜひ、写真に収めたいと願っていますがなかなかシャッターチャンスに恵まれません。

また、白鳥が長い首を水中に突っ込んで餌をとる格好は中々ユーモラスな景色です。

採餌するスワン尻みせ足をみせ

白鳥を見守っていると他の珍しい野鳥の飛来にも気がきます。ミコアイサやくちばしの白いオオバン、空飛ぶ宝石といわれる翡翠（カワセミ）も時々見かけます。

白鳥が飛び立つ際は水面を蹴りながら羽ばたいて離陸します。飛び立つ方向は航空機と同様に風向きを選んでいきます。ですから、風向きによって飛んで行く方向が異なっています。

風向きを選びてスワン飛び立てり

白鳥が飛来してから、カミさんとも共通の話題が出来ました。また、新聞やテレビが報道してくれるおかげで、市民の関心も高まっているように思えます。

時々飲みに行く仲町のスナックでも話題に事欠きません。白鳥の話をしていると女の子が目を見張らせて聞いてくれます。

白鳥が来てからなんとなく運が向いているように思え、ひよつとしたら、我が家にとつては白鳥は「幸運の青い鳥」ならぬ白い鳥なのかも知れません。そのうちに幸運がめぐってくることを夢見ています。

白鳥が何時シベリアに向かって帰るかはわかりません。夕方にお堀へ帰ってこないことで、その日の朝の飛翔は北帰行

だったとわかる訳です。

今年は三月二十七日朝、六時半に北へ向かって帰っていきました。

夕方、白鳥が帰ったとわかると、彼らの数千キロの旅の無事を祈って晩酌をすることになっています。いつもよりちよつと飲みすぎてしまいましたが、一年に一度くらい仕方ないと自分で言い訳をしています。

そして、また来年無事に来てくれる事を祈っています。

白鳥のラスト・フライトまた来いよ

